

阪神・淡路大震災により、お亡くなりになられた方々に、心より哀悼の意を捧げます。

平成7年1月17日午前5時46分。突然、この街を襲った大地震により、私たちの日常は破壊されました。多くの尊い命が失われ、慣れ親しんだ街並みは見るも無残な姿となり、その日の光景は今もなお、鮮明にこの目に焼き付いています。

阪神・淡路大震災以降も、私たちは、幾度となく自然災害に見舞われました。全国の様々な地域でも、多くの命が奪われ、生活が脅かされ、その度に、無力感や絶望感が私たちを襲います。

阪神・淡路大震災で全国、世界中の人々からいただいたご支援の恩返しのため、そして被災された方々に勇気と希望をもっていただくため、私たちは、様々な形で災害からの復興支援に取り組んでまいりました。

神戸市会も、そのご恩返しのため、2年前、全国の815の市議会議長で構成される全国市議会議長会の会長に立候補し、地方が直面する諸課題の解決に率先して取り組むことを決意しました。現在、私は、議長会会長の役割を担っており、議長会も全国各地で発生する大規模災害について、被災地の復興支援に取り組んでいます。昨年は、能登半島地震の被災地に赴き、被災状況の確認や被災自治体との意見交換を踏まえ国への緊急要望や義援金の募集などを行ってまいりました。

私たちは、被災された方々を勇気づけるために、支援を行います。しかし、支援活動を通して、私たちも、災害から立ち上がる人々の姿に、勇気をもらい、希望の光を見出します。どんなに街が壊されても、どんなに何かを失っても、未来を創り出そうとする力が、私たちには備わっているのだと、私は確信します。

あの日から、30年。一日一日を積み重ね、私たちは、今、この場所にたどり着きました。

神戸の街は、この街を愛する多くの人々の努力と支援により、蘇りました。

私たちは、この街に注がれた愛情と紡がれた絆を、決して忘れることはできません。

私たちは、この街に関わったすべての人々とともに、未来に向かって歩んでいきます。

私たちの命は続きます。そして、この街で紡がれた絆を、これから生まれ育つ命へ引き継ぎ、神戸を愛する人が誇れる未来を創造していくことを誓います。

犠牲になった方々の御靈の安らかならんことをお祈り申し上げて、追悼の言葉といたします。

令和7年(2025年)1月17日

神戸市会議長 坊 恭寿